

第1回 松山空港将来ビジョン検討会 議事要旨

〔日時：令和2年1月24日（金）13:30～
場所：愛媛県水産会館6F大会議室〕

1 開 会

2 開会あいさつ

3 議 事

(1) 松山空港将来ビジョン検討会の設置について

事務局より、松山空港将来ビジョン検討会設置要綱（案）について説明。
（異議なく原案可決）

(2) 松山空港の現状について

事務局より、松山空港の現状について説明。

(主な質疑応答)

<会 長>

- ・松山空港の利用者の特徴は、近隣空港と比べてどうか。

<事務局>

- ・インバウンド、アウトバウンド双方向の利用があるのが特徴的である。

(3) 将来需要の予測手法について

(4) 松山空港の将来目標（案）について

事務局より、将来需要の予測手法、松山空港の将来目標（案）について説明。

(主な質疑応答・意見)

<会 長>

- ・路線数、便数の設定について、事務局から説明をお願いしたい。

<事務局>

- ・国内線については、現在松山空港から直行便のない、例えば東北、北陸を想定して、1路線の増加を目標としている。
- ・国際線については、既存路線のデイリー化等の増便と訪日需要や県民ニーズ等を踏まえ、経済成長が著しく若い人口も多く抱えているアジア諸国における可能性を探りながら、2路線程度の路線増加を想定している。

<経済関係>

- ・国内線利用者の推計値は、10年後までは順調に伸びているが、それ以降から15年後までは横ばいとなっている。これは人口減少を加味しているのか。20年後、30年後は利用者が減少していくことになるのか。

<事務局>

- ・人口減少を加味して推計している。15年後以降の利用者は推計していない。

<空港関係>

- ・羽田、伊丹の主たる路線の便数を維持しながら、将来の目標路線数・便数の達成に携わっていきたい。

<自治体関係>

- ・需要予測には、チャーター便の利用者数も含まれているのか。

<事務局>

- ・含まれている。

<空港関係>

- ・チャーター便についても、アジア諸国が主要な方面となるのか。

<事務局>

- ・新規路線を目指してのチャーター便であるため、アジア諸国を想定している。

<二次交通関係>

- ・運用時間の延長はあるのか。

<事務局>

- ・現在の運用時間内で予測している。

<経済関係>

- ・近隣空港における国際線の路線数はどうか。

<事務局>

- ・令和2年1月現在の状況で、高松空港は、ソウル週3往復、上海週5往復、台北週6往復、香港週5往復の4路線、広島空港は、上海週7往復、大連週4往復、台北週7往復、香港週3往復、シンガポール週3往復、バンコク週3往復の6路線である。

<空港関係>

- ・国内線における5年後の既存路線利用者の伸び率が高いと感じられるが、どのように算定したのか。

<事務局>

- ・過年度の伸び率の実績や増加する訪日外国人旅行者の国内移動も反映させて需要予測を行っている。

4 その他

・松山空港の機能拡充について（令和元年6月要望）

事務局から、松山空港の機能拡充について説明。

（主な意見）

<空港関係>

- ・同時発着が可能となるように、スポット増設だけではなく、チェックインカウンターや保安検査場の増設等の検討もお願いしたい。
- ・路線拡充により従業員を増強していく必要があるため、従業員用の駐車場の確保についても合わせて検討してほしい。

<経済関係>

- ・高松空港の国際線利用の現状が約30万人であるため、高松空港のスポットやチェックインカウンターの施設状況が参考になるのではないかと。

<二次交通関係>

- ・現在、バス、タクシー、レンタカーを停める場所が非常に輻輳している。利用者の増加を目標とするのであれば、今後、円滑に駐車できるように検討をお願いしたい。

5 閉 会